

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4090700172		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイのほほえみ下上津役		
所在地	福岡県北九州市八幡西区下上津役2丁目11番21号 (電話) 093-614-5201		
自己評価作成日	平成 22 年 7 月 5 日	評価結果確定日	平成 22 年 9 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

環境がよく、四季の移り変わりが地域の行事と密着しており、それに参加することがお客様の楽しみになっているので、ご希望の方が出かけられるようにスケジュールを組んだり、ご家族に参加していただいたりしています。

お客様に寄り添い過ごす中でのお気づきを大切に、認知症の介護を行っていくように心がけています。

お客様一人ひとりのペースを大切にしています。

お食事を一緒に作ったり、レクリエーションをしたり、お掃除をしたり、日々の生活の中でできるだけ現有能力を発揮でき、それを最大限に活かせるようにサポートをしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	平成 22 年 7 月 23 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

田園に囲まれ、自然環境に恵まれた2階建てで明るい色調の事業所は、周辺に幼稚園・中学校等の公共施設や病院、神社、スーパー等が点在する住宅地に位置している。事業所室内の一角には和室が設置され、利用者は思いおもいに寛がれている。管理者と職員は、一体となって利用者の排泄の自立や身体拘束をしないケアに努め、本人本位の支援とケアの質の向上に熱意を持ち、日々取り組んでいる。利用者の安心した表情と元気で明るく職員の笑顔がほころぶ様子から、今後、さらなる発展が期待される事業所である。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を定めており、共有している。老いを学ぶ・共に生きる・やさしい手お客様の個性を大切に、その方らしく生活できるようケアに取り組んでいる。「感謝」という言葉を大事にし、すべてのことに感謝するよう話している。	事業所独自の理念があり、朝礼時に唱和し、理念の実践に向け、言葉かけ・態度・記録等、地域に密着した利用者のケアに取り組んでいるが、地域密着型サービスの視点はない。	これまでの理念に加えて、地域密着型サービスの視点を加えた理念を再度つくりあげてほしい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。朝の清掃時にはこちらから挨拶をすること。子ども110番の実施。行事を行うときは外に掲示したりチラシを配ることで地域の方にもご参加いただく。地域の行事にも参加をする。	自治会に加入し、清掃活動等の地域活動や夏祭り、敬老会等の地域活動へ参加している。近隣住民の立ち寄りやおすそわけをする関係が構築されている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お便りの掲示。介護サービスの相談を受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行ない、ご要望等をうかがった後はスタッフと改善策などを話し合い、次の会議のときに結果を報告できるように努めている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、利用者やサービスの実際等、報告や話し合いを行っている。非常災害時における協力依頼を行い、消防団と協力体制を整える等、運営推進会議をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	随時、市町村担当者と連絡を取り、近況報告や困難事例に対してのアドバイスをいただいている。また空室の情報も提供している。	日頃から地域包括支援センターに報告や相談し、事業所便りに運営推進会議の日程を記載して送付する等、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員を設置。3ヶ月ごとにお客様全員のアセスメントを行うとともに、心身の状況を把握できるように検討会を行っている。	居室や玄関は施錠をしていない。職員は、利用者の外出傾向を把握し、見守りや付き添いを行っている。身体拘束マニュアルがあり、各ユニットで身体拘束に関する委員を選定し、定期的に身体拘束委員会を開催して、日々の支援内容を確認している。研修記録等がある。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待マニュアルを作成。年一回をめぐりに勉強会を行っている。 新入職員に関しては入社時オリエンテーションで指導を行う。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族向けのパンフレットを用意している。 勉強会を行い、制度を理解できるよう努めている。	管理者や職員は、制度に関して内部・外部研修で学ぶ機会がある。テキスト・パンフレット・研修記録がある。また、制度について、家族等へ利用開始時に説明している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際して、サービス契約書・重要事項説明書を用い、ご家族が納得されるまで説明を行っている。 また解約時、必要であれば退居先の確保に努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見等が出た場合は、直ちにカンファレンスを開き、対応にあたる。運営推進会議で話し合いを行ったり、結果を発表したりする。	利用者・家族等の意見は、意見箱を設置し、また、日々のケアの中や家族来訪時等に積極的に声かけして聴取するよう努めている。また2ヶ月毎に開催する家族会での意見、要望、苦情等は、その都度協議し、意見や要望を運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回全体会議を開き、会社側の決定事項の周知徹底。意見等があればその都度話し合いを行い、報告を行っている。	自己評価は、ユニットリーダーが職員の意見を集約して取り組んでいる。管理者は、定期的に個別面談を行い、また会議時やユニットリーダーを通じて、職員の意見や提案を聴取する機会を設けている。職員の希望を考慮した勤務体制を整え、異動や離職を抑えるよう配慮している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度を導入している。 就業環境に関しての要望を労働組合にあげていけば、労使協議をしてもらえる。 ステップアップ研修を行い、各分野の最先端を知ることができる。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に関して、年齢や性別また、その他のいかなることで不利益とならないように、採用の際は気をつけている。 採用マニュアルあり。 職員に関しては積極的に会話をしたり、年2回の面談を行い、ステップアップできるよう助言指導を行っている。	職員の採用にあたっては適性或熱意を考慮し、性別や年齢等の理由で排除しないようにしている。また本人の能力が発揮できる職場環境を目指し、支援している。定年後に嘱託制度があり、本人が希望すれば、引き続き働ける環境を整備している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	認知症高齢者であっても、尊厳を持って毎日を過ごせるようにするためには、どうすればよいかを日々話している。できないことをサポートする姿勢作りに取り組んでいる。	日頃から利用者の尊厳や人権を尊重することを全職員で心がけ、また、内部研修を行い、利用者に対する人権を尊重するよう取り組んでいる。テキスト・パンフレット・研修記録等がある。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ステップアップ基準や、社外での研修に参加できるように配慮している。また社内研修は年間の研修計画を立て、入社後の資格取得を目標としている。新入社員にはOJT制度を用いている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に積極的に参加し、同業者とのコミュニケーション作りを目指している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に、面談を何度か行い、顔馴染みの関係を構築するように心がけています。 ご本人やご家族の思いをよく聞いて、不安に思っていることなどを少しでも解消できるように、お互いに話し合いを持ちます。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの経緯や生活歴をふまえたうえで、現在困っていることを、不安なことや要望をお聞きするようにしています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	お話をさせていただく中で、ご本人に何が 必要かをご家族と検討させていただき、必要 なサービスが受けられるように支援して います。グループホーム以外のサービスに についてもご説明をしています。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	お客様の立場にたった考え方をしながら、 個々の状態に合わせた接し方をしている。 できることは自分で、できないことはみん なでと役割分担をすることで、社会性の継 続を心がけている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	来所時や、何か変化があったときは直ちに ご家族の方に相談をしている。ケアプラン の作成時には必ずご家族のご要望をプラン に反映させている。遠方にお住まいの方 には、定期的に連絡を取るようしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	ご面会に関しての制約はない。また個別に 出かけた場所がある場合はスタッフを調 整し同行したり、ご家族に依頼したりし て、外出できるように支援している。	管理者や職員は、利用者の馴染みの人や 場所について把握している。知人に訪問し てもらったり、馴染みの美容室の利用や墓 参りに出かける等、支援に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間でなるべく過ごせるように、レクリ エーションを提供したり、生活リハビリ テーションを行ってもらっている。個々の できることに合わせた役割分担を行い、み んなで同じ時間が過ごせるように支援して いる。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	退居後に来所されるご家族もいる。 お友達にホームを勤めていただくこともあ る。 「退居後もご相談やご要望はいつでも対応 いたします」と説明をしている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お客様の立場にたった考え方をしながら、全職員でカンファレンスを開き、検討している。ご要望通りにいかないこともあるが、なるべくご意向に添えるように努力をしている。	利用者の表情や行動、しぐさ等から本人の思い等を推し測り、また声かけして希望や意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合にも、職員は利用者を注意深く観察し、家族等からの情報を参考に職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に入所時アセスメントを行い、把握に努めている。また入居後、明らかになってくる様々なことはセンター方式を活用。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できることできないことシートを用いて、現有能力が最大限に発揮できるようにサポートをするよう心がけている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と面談してご要望を伺っている。また定期的に家族会を開き、ご家族同士の情報交換ができるようにしている。介護計画を作る際は、まずご家族とご本人の意向を確認している。健康状態に不安があるときや専門的な知識を有するときは、随時、医師や看護師と一緒に話し合いを設ける場を設定できる。	本人、家族、職員の意見を聴取し、利用者の状態に応じた介護計画を作成している。3ヶ月に1回、また状態変化に応じて、介護計画を見直している。作成後は、家族等へ説明し、署名・押印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、なるべくご本人が言った言葉を書くようにしている。言葉の裏にある真実を見つける努力をしている。毎朝、申し送りや管理日誌で情報共有を行い、必要であればカンファレンスを開き、介護計画の見直しを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節ごとの外出など、できる範囲で続けていきたい。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	レクリエーション時に、ボランティアさんに来ていただいたりしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連絡を取りながらお客様の心身の状況把握をしたり、必要な場合は普段の生活の様子をお知らせし、関係の構築に努めています。	本人及び家族等の希望を大切にし、今までのかかりつけ医や事業所の協力医での往診を支援している。受診時の通院介助や情報伝達方法について、利用開始時に家族と話し合い、合意している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、看護師の訪問があり、健康チェックを行っています。24時間相談できる体制をとっています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中はカンファレンスやご家族への説明に付き添い、入居中の様子を伝えたり、本人の要望や、ホーム内でできることを伝え、なるべく馴染みの関係に早く戻れるように支援している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や急変時の対応に関しては、かかりつけ医とご家族に相談をしてもいい、方向性を定め把握している。重度化した場合は指針があり、家族に説明し、同意を得ている。	重度化した場合や終末期のあり方について事業所の方針があり、利用開始時に利用者や家族等へ説明し、同意を得ている。利用者本人の状態を見ながら、家族、職員、かかりつけ医で話し合い、本人・家族等と合意を図りながら方針を共有し、支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、消防署の指導の下、応急処置の訓練を行っている。研修会でも年に1度は実施し、入社時には夜勤前に担当者が指導を行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年4回行っている。防災マニュアルの設置。	マニュアルを作成している。年2回、消防署及び消防団、地域住民の協力を得て、避難訓練を実施している。また、事業所独自で年2回、訓練を行っている。非常用食料・飲料水・備品を準備している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの気持ちや、気分に合わせて言葉かけや、対応をしている。否定をしないということを常に大切にしている。	職員は、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないよう内部研修を行い、言葉かけや対応に配慮している。研修記録がある。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要望を表出しやすい関係作りを心がけ、様々な会話の中から真意を抽出できるように努めている。自己決定を尊重し、できない方には二者択一をしてもらうようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様の自分のペースで生活できるように心がけている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容がやってくる。ご自身の好きなヘアスタイルにできるように支援している。個別に美容院へ行かれる方もある。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	レクリエーションとしての食事作りを行ったり、食事の片づけを一緒に行ったりしている。	職員は利用者と一緒に準備・片付けを行い、利用者と同じ食事を同じテーブルで食べている。また、栄養士作成の献立を参考に職員で話し合い、利用者の嗜好を考慮した献立を作成している。週1回、調理レクリエーションを実施し、利用者と共に料理を作る等、食事を楽しむことのできるよう工夫している。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を把握、共有するように努め、一人ひとりの食事・水分に関しての支援をしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりにあった口腔ケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はなるべくトイレでできるように、時間ごとに誘導したりしている。羞恥心に配慮した支援を行っている。	利用者一人ひとりのサインを把握し、さりげなく支援している。排泄チェック表を作成し、おむつの利用が改善する等、常に排泄の自立を意識したケアを心がけている。失禁の際は、本人の自尊心を傷つけないよう声かけ等に配慮している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘についての勉強会を行い、予防に取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日、入浴時間は定めず、入りたいときに入られるようにしている。羞恥心に配慮している。くつろいだ気分で入浴できるようにお風呂の日を制定。	利用者一人ひとりの状況等に応じて、毎日、入浴支援をしている。入浴拒否の利用者へは、声かけ等を工夫して、入浴を楽しむことができるよう支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の状態や希望に合わせて、休息できるように支援している。また夜間よく眠れるように、日中の活動性UPを心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助方法は、マニュアルを用い、指導している。往診後は、管理日誌で申し送りをし、周知徹底。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様のできることを見つけ、生活の中で役割を持っていただいている。また散歩やレクリエーションで、気分転換を図っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望によって、買い物や散歩またはご自宅に帰る支援も行っている。	天候や利用者の体調に配慮し、利用者の希望に応じて散歩や買い物、外食等、家族と相談しながら支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出し、金銭の取り扱いがある場合は、能力に応じて支援し、一人ずつ対応している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や、暑中見舞い等をご家族に出せるようにしている。要望があれば、電話を取り次いだり、かけてもらったりしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心がけ、環境整備を行っている。花を飾ったり壁紙などで、季節感を演出している。	共用の空間は、ソファや畳のスペース等を配置し、利用者一人ひとりが思いおもいに過ごせるよう配慮している。利用者作成の書や貼り絵を飾り、また利用者が活けた花を飾る等、生活感や季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のテーブル席以外にも、椅子やソファを置き、好きなところで過ごせるように工夫している。お客様同士、気のあう方を考慮して、席替えを行ったりする。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では、ご自身の使い慣れたものを使用させていただいている。衣類の衣替えは、お客様と行う。ご自身がくつろげるお部屋作りに努めている。	居室は、利用者馴染みのベッドや椅子、筆筒等を持ち込んでいる。また、家族写真や趣味のものを飾り、利用者が安心して過ごせるよう工夫している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な方のために手すりを設置。廊下・脱衣所・風呂・トイレ等、環境整備にも注力している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を定めており、共有している。 老いを学ぶ・共に生きる・やさしい手 お客様の個性を大切に、その方らしく生活できるようなケアに取り組んでいる。「感謝」という言葉を大事にし、すべてのことに感謝するよう話している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。 朝の清掃時にはこちらから挨拶をすること。 子ども110番の実施。 行事を行うときは外に掲示したりチラシを配ることで地域の方にもご参加いただく。 地域の行事にも参加をする。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お便りの掲示。 介護サービスの相談を受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行ない、ご要望等をうかがった後はスタッフと改善策などを話し合い、次の会議のときに結果を報告できるように努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	随時、市町村担当者と連絡を取り、近況報告や困難事例に対してのアドバイスをいただいている。また空室の情報も提供している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員を設置。 3ヶ月ごとにお客様全員のアセスメントを行うとともに、心身の状況を把握できるよう検討会を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待マニュアルを作成。年一回をめぐりに勉強会を行っている。 新入職員に関しては、入社時オリエンテーションで指導を行う。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族向けのパンフレットを用意している。 勉強会を行い、制度を理解できるよう努めている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際して、サービス契約書・重要事項説明書を用い、ご家族が納得されるまで説明を行っている。 また解約時、必要であれば退居先の確保に努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見等が出た場合は、直ちにカンファレンスを開き、対応にあたる。運営推進会議で話し合いを行ったり、結果を発表したりする。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回全体会議を開き、会社側の決定事項の周知徹底。意見等があればその都度話し合いを行い、報告を行っている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度を導入している。 就業環境に関しての要望を労働組合にあげていけば労使協議をしてもらえる。 ステップアップ研修を行い、各分野の最先端を知ることができる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に関して、年齢や性別また、その他のいかなることで不利益とならないように、採用の際は気をつけている。 採用マニュアルあり。 職員に関しては積極的に会話をしたり、年2回の面談を行い、ステップアップできるよう助言指導を行っている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	認知症高齢者であっても、尊厳を持って毎日を過ごせるようにするためには、どうすればよいかを日々話している。できないことをサポートする姿勢作りに取り組んでいる。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ステップアップ基準や、社外での研修に参加できるように配慮している。また社内研修は年間の研修計画を立て、入社後の資格取得を目標としている。新入社員にはOJT制度を用いている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に積極的に参加し、同業者とのコミュニケーション作りを目指している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に、面談を何度か行い、顔馴染みの関係を構築するように心がけています。ご本人やご家族の思いをよく聞いて、不安に思っていることなどを少しでも解消できるように、お互いに話し合いを持ちます。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの経緯や生活歴をふまえたうえで、現在困っていることを、不安なことや要望をお聞きするようにしています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話をさせていただく中で、ご本人に何が必要かをご家族と検討させていただき、必要なサービスが受けられるように支援しています。グループホーム以外のサービスについてもご説明をしています。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様の立場にたった考え方をしながら、個々の状態に合わせた接し方をしている。できることは自分で、できないことはみんなで役割分担をすることで、社会性の継続を心がけている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や、何か変化があったときは直ちにご家族の方に相談をしている。ケアプランの作成時には必ずご家族のご要望をプランに反映させている。遠方にお住まいの方には、定期的に連絡を取るようになっている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご面会に関しての制約はない。また個別に出かけたい場所がある場合はスタッフを調整し同行したり、ご家族に依頼したりして、外出できるように支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間でなるべく過ごせるように、レクリエーションを提供したり、生活リハビリテーションを行ってもらっている。個々のできることに合わせた役割分担を行い、みんなで同じ時間が過ごせるように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に来所されるご家族もいる。お友達にホームを勧めていただくこともある。「退居後もご相談やご要望はいつでも対応いたします」と説明をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お客様の立場にたった考え方をしながら、全職員でカンファレンスを開き、検討している。ご要望通りにいかないこともあるが、なるべくご意向に添えるように努力をしている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に入所時アセスメントを行い、把握に努めている。また入居後明らかになってくる様々なことはセンター方式を活用。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できることできないことシートを用いて、現有能力が最大限に発揮できるようにサポートをするよう心がけている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と面談してご要望を伺っている。また定期的に家族会を開き、ご家族同士の情報交換ができるようにしている。介護計画を作る際は、まずご家族とご本人の意向を確認している。健康状態に不安があるときや専門的な知識を有するときは、随時、医師や看護師と一緒に話し合いを設ける場を設定できる。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、なるべくご本人が言った言葉を書くようにしている。言葉の裏にある真実を見つける努力をしている。毎朝、申し送りや管理日誌で情報共有を行い、必要であればカンファレンスを開き、介護計画の見直しを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節ごとの外出など、できる範囲で続けていきたい。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	レクリエーション時に、ボランティアさんに来ていただいたりしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連絡を取りながらお客様の心身の状況把握をしたり、必要な場合は普段の生活の様子をお知らせし、関係の構築に努めています。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、看護師の訪問があり、健康チェックを行っています。24時間相談できる体制をとっています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中はカンファレンスやご家族への説明に付き添い、入居中の様子を伝えたり、本人の要望や、ホーム内のできることを伝え、なるべく馴染みの関係に早く戻れるように支援している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や急変時の対応に関しては、かかりつけ医とご家族に相談をしてもらい、方向性を定め把握している。重度化した場合は指針があり、家族に説明し、同意を得ている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、消防署の指導の下、応急処置の訓練を行っている。研修会でも年に1度は実施し、入社時には夜勤前に担当者が指導を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年4回行っている。防災マニュアルの設置。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守れるように声かけを行えている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限りご要望にこたえられるようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアの目標として同じ目線に立ち、その人のペースを尊重するよう努力している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を依頼している。フェイスマッサージ・ハンドマッサージも取り入れている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に1回、調理レクリエーションを実施。全員が参加できるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分制限やカロリー制限のある方に関して、スタッフ全員周知徹底し、取り組んでいる。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人に合わせたケアを心がけているが、抵抗があり、十分にケアできていない方もいる。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導を個人ごとに設定し、なるべくトイレで排泄できるように努めている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の研修を行い、食物繊維を多くしたり、十分な水分摂取や、運動を取り入れている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日の設定はせず、毎日入りたい方は毎日実施している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の状況に合わせて、必要な休息が取れるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬はダブルチェックできるようにしている。薬に関する副作用の理解などは、必要な都度、勉強会をしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴は、センター方式を活用している。役割日課を一人ずつ定め、実施できるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望によって、買い物や散歩またはご自宅に帰る支援も行っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出し、金銭の取り扱いがある場合は能力に応じて支援し、一人ずつ対応している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や、暑中見舞い等をご家族に出せるようにしている。要望があれば、電話を取り次いだり、かけてもらったりしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心がけ、環境整備を行っている。花を飾ったり壁紙などで、季節感を演出している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のテーブル席以外にも、椅子やソファを置き、好きなどころで過ごせるように工夫している。お客様同士、気のあう方を考慮して、席替えを行ったりする。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では、ご自身の使い慣れたものを使用させていただいている。衣類の衣替えは、お客様と行う。ご自身がくつろげるお部屋作りに努めている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な方のために手すりを設置。廊下・脱衣所・風呂・トイレ等、環境整備にも注力している。バリアフリーである。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない